

## 芸術工学部環境設計学科

### ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

環境設計学科は、その教育を通して学生が獲得する環境設計学に必要な能力、知識、理解、態度、志向性を以下のように分類し、到達目標としている。

#### （1）基礎的能力

- ・ 野外調査及び文献資料をもとに、環境設計に係わる対象を正確に把握できる。
- ・ 外国語の文献理解と環境設計の分野で国際的に通用するコミュニケーションができる。
- ・ 科学的分析により環境設計に係わる諸現象のモデル化や最適解を導き出すことができる。
- ・ 文章表現や情報技術等を活用し、計画・設計の内容を正確に他者に伝えることができる。
- ・ 討議等にあつて自己の考えを他者に的確に伝えることができる。

#### （2）4つの想像力

- ・ 現象や事物が具体的な「空間」的な広がりの中に展開することを専門知識を基に想像できる。
- ・ 現在の環境が、過去からの遺産で構成されているという「時間」的厚みを専門知識を基に想像できる。
- ・ 社会が多様な価値観、利害を持つ多くの「他者」から構成されていることを専門知識を基に想像できる。
- ・ 人間が生態系の一員であるという「自然」の一部としての自己を専門知識を基に想像できる

#### （3）実践的な解決能力

- ・ 用途、機能、美しさ、快適性を踏まえ、対象の持つ条件を考慮しながら、環境にとって適切、かつ具体的な空間を提示することができる「設計能力」を獲得する。
- ・ 社会の要請を踏まえ、既存の制度を前提としつつ、持続可能な社会を達成するための計画とその法規制を含めた制度を立案することができる「計画・制度立案能力」を獲得する。
- ・ 適切な環境を維持するために、制度や計画の継続性を考慮して、人的資源を有効に活用する組織を作ることができる「組織化の能力」を獲得する。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

環境とは学際的な対象であり、ここでは建築、都市、自然、造園という、通常は異分野とされているものを総合的かつ実践的に教育を行う。多くの領域を統合的に学べるようフィールドワーク（野外調査など）やアトリエ（設計の演習）を重視し、環境設計学を構成する3分野をまんべんなく修得する。環境論分野では、設計家としてはっきりした哲学を持つために、環境を評価し論じるために根本となる、自然や人間や社会に関する学問を学ぶ。環境計画設計分野では、創造的な設計能力を体得するために、地域、都市、建築、自然、歴史的遺産といった具体的な環境の中で、実際に何をどう設計するかを学ぶ。環境システム分野では、持続可能な環境を設計するための根幹となるツールを修得するため、技術と社会のシステムを学ぶ。

### アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

#### （1）教育理念（教育理念・目標、育成する人材像等）

環境設計とは人間と環境の共生という理念にたつて、両者の関係のありかたを考察しつつ、

具体的な提案をすることです。したがって、エコロジー、持続可能性、資源、文化遺産といった近年の懸案に応えるため、芸術工学の基本理念にたって技術、人間、社会、自然に関する見識を総合的に結集して、芸術的センスあふれる建築や都市、緑地や景観などを創造できる環境設計家を養成します。

## (2) 教育プログラム

環境とは学際的な対象です。ここでは建築、都市、自然、造園という、通常は異分野とされているものを総合的かつ実践的に教育します。多くの領域を統合的に学べるようフィールドワーク(野外調査など)やアトリエ(設計の演習)を重視します。3分野をまんべんなく学習します。環境論の分野では、設計家としてはっきりした哲学を持つために、環境を評価し論じるために根本となる、自然や人間や社会に関する学問を学びます。環境計画設計の分野では、創造的な設計能力を体得するために、地域、都市、建築、自然、歴史的遺産といった具体的な環境の中で、実際に何をどう設計するかを学びます。環境システムの分野では、持続可能な環境を設計するための根幹となるツールを修得するため、技術と社会のシステムを学びます。

## (3) 求める学生像 (求める能力、適性等)

学部共通での「(3) 感性」に係わるものとして下記の学生を歓迎します。

- ・空間的なイマジネーション。室内、広場、風景といった空間の広がりや脳裏にありありと思いを浮かべようとする意欲とその能力。
- ・時間的なイマジネーション。現代の環境が、どのような過去からの経緯でできているか、それを改善するために未来に向かってどう提案するかという意欲とその能力。

## (4) 入学者選抜の基本方針 (入学要件、選抜方式、選抜基準等)

- ・前期日程に関しては学部共通項と同じです。
- ・総合選抜方式(AO選抜)では、基礎的な学力を備えたうえで、環境や事物の特徴を観察し、また創造できる感性を備えた意欲的で個性豊かな学生を歓迎します。そのために個別学力検査を免除し、書類選考、大学入試センター試験及び実技の総合評価方式による選抜を行います。